

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：北海道大学（サブサハラ）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

広大で、文化的にも多様な地域でコロナ禍以前からよく対応している。ナイロビサテライトオフィスを設立するなど戦略的かつ長期的な目標に基づいて活動が行われており、評価できる。戦略的な考えに基づき、分析、情報収集、広報活動、募集活動が行われ、より優秀な学生へのアプローチが可能となるよう工夫がなされている。

また、コロナ禍以降もオンライン化を進める等して積極的に事業を進めており、今後の留学生の受け入れ数増に期待をもつことができる。

2. 成果指標（※）の進捗状況

関係機関と連携しながら、コロナ禍にあってもホームページの他、各種 SNS を利用し、留学プロモーションに関する情報発信を行っている。SNS の利用の他、トップクラスの現地高校での面談は日本留学という選択肢を高校生に直接伝える高い効果が期待される。優秀な留学生獲得に向けて学生のみならず、進出日系企業・機関、日本語教師会とも関係構築を進めている。

今後、優秀な学生の獲得及び帰国留学生とのネットワーク構築について展開が期待される。

3. 実施体制の構築・活動状況

広い地域で数多くの国が存在する中で多彩なバックグラウンドを持った人材を配置、ナイロビサテライトオフィスを設置するなどしており、計画通りに実施されている。コロナ禍という中でコーディネーターは一時帰国を余儀なくされているが、オンラインによる現地との連携がなされている。

自大学のリソースのみならず、他大学（秋田大学（ポツワナ）、愛媛大学（モザンビーク）、京都大学（エチオピア）、長崎大学（ケニア）、京都精華大学（ダカール）等）のネットワークとも連携して活動を行っているが他地域との連携及び留学後のキャリアパスに対する活動が今後の課題である。

4. 今後の実施方針についての検討状況

オンライン化を余儀なくされた状況から、今後のより良い IT 活用のために、これまでの実施内容、取得データの分析等を通し、次につなげるサイクルとなっており、理想的。従前に経験してきたリアルの特長とオンラインによるメリットを最大化する今後の具体的施策の実現に期待できる。

委託期間終了後のナイロビサテライトの活用及び事業の財政基盤の見直しは引き続き検討を要する。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」